

ぼらんた～る

地球規模で楽しむ
新・ボランティア情報誌

Volunteer

2005-August vol.13
www.volun-net.com
定価 480円

8

LOVE KAZOKU

いっしょがいいよね。



ボランティア情報

359件!

一挙掲載

50万の人命を奪った津波は、
多くのソイドッグを生んだ

津波発生直後、私はブーケットに
いました。史上最悪の自然災害は50
万の人命を奪い、また動物たちの命
も奪っていきました。そして飼い主
を亡くした犬や猫、今まで森の中
で暮らしていたが森自体が津波で無
くなってしまい仕方なく下界に降りて
きた犬や猫が「ソイドッグ」「ソイ
キヤット」となっていました。
「ソイ」とはタイ語で「道」つまり
「ソイドッグ」とは路上犬、野良犬
という意味なのです。

自分でお金と時間を負担し
自分が助けたいものを助ける

意外に思うかもしれませんが、ブー
ケットでは実際に被害を受けたホテ
ルは全体の10%に過ぎず、90%のホ
テルは正常に営業できる状態でした。
しかし風評被害により観光客は激減。
島民の85%が観光業で食べていると
いうブーケット島の経済は壊滅的打
撃を受け、失業者が続出していまし
た。今ここで、動物由来感染症(狂
犬病など)が発生した場合、津波被
災に追い討ちをかける最悪の事態が
人間、動物、経済に起こります。そ
こで私は「被災動物による動物由来
感染症発生を緊急に予防する必要が
ある。そのためには高度な技術を持
った獣医をこの地に派遣しよう」と
即刻、決意したのです。

このように即決できることは、寄付
に頼らず自己完結で行うボランティア



致死処分しても野良犬は 減らないんです

～またたび獣医師団～

スマトラ沖地震で動物救済ボランティア

現在スマトラ沖地震被災動物の救済活動をしている日本の獣医さんたち。

彼らの名は『またたび獣医師団』。一般からの寄付などは一切募っておらず、すべて自腹で行っているそうです。災害時、現地の動物たちの救済を行うボランティアたちの姿をニュースで見かけますが、それは欧米の獣医やレスキューグループばかりが目につけていました。でも、こんな勇気ある行動をしている日本の獣医さんもいるんです。日本人として純粋に嬉しくなってきましたね。



福祉団体に寄付をして活動をしてもらうというものが主流ですが、本来、自分でお金と時間を負担し、自分が助けたいものを助けるのがボランティアの原点です。また現場を知ること、何が必要かを知ることができず、緊急現場で最も重要な即決ができます。そして私の場合、何より現場が好きなのです。

山口獣医師

野良犬を元に戻すのが基本です

私が2005年2月1日に一時帰国してから、わずか2週間で獣医師団を派遣できたのも、神奈川県大和市で病院を経営されている山口武雄先生が「ブーケット」とりあえず1カ月ほど一緒に行ってください」という私の要請に対して、わずか2秒で「いいですよ」とOKしてくれたからです。山口先生には以前にも「ブータン国での不妊去勢手術の指導に1カ月ほど行ってください」と頼んだことがありました。そのときはブータンという国を理解するまでに10秒ほどかかりましたが(笑)。

帰国2週間後の2月15日には再びブータンに立っていました。現場では、年齢、性別、国籍ばらばらのカナダ、オーストラリア、ニュージーランド、オランダ、スウェーデンなど世界中から駆けつけた獣医師らが活動しています。若い女医さんが多いです。摂氏35度を超す熱帯のお寺の片隅、屋根だけの手術室、自国では見たこともない酷い負傷、皮膚病、凄まじい数のノミ、ダニ。そのような中でそれぞれの獣医がウンチの掃除、麻酔、手術、予防接種と、自ら仕事を見つけて働いています。凄まじい環境ですが、現場には同じ理念を持った優しい人たちの笑顔と笑い声が絶えません。今回のプロジェクトの総指揮を行う「ソイドッグファンデーション」のリーダー、マーゴットのおかげです。患者はボランティアに救済されたり、地元住民によって持ち込まれたりした動物たちですが、ボランティア獣医が麻酔入り吹き矢で捕獲して持ち込む場合も多いです。熱帯で負傷した動物は、皮下にウジが50匹ほど繁殖していたり、またほとんどの犬は疥癬(カイセン)という皮膚病にかかっています。柴犬ほどの大きさの犬がお寺に捨てられていた時は、背中直径15センチほどの傷部分が腐り、ウジが繁殖し瀕死の状態でした。こういったひどい症状の動物は地元獣医に送られます。ちなみにこの犬は30日ほど入院して完治の後、元のお寺に戻されます。

これらの方法で持ち込まれた

不妊去勢手術、狂犬病ワクチン注射、混合ワクチン注射、ノミ、ダニ駆除など、一通り医療行為を施し、通常一泊の入院を経て元の場所に戻します。読者の方々の中には、「野良犬を元の場所に戻す」ということに違和感を覚えた人がいるかもしれませんが。日本では、1年間に約50万頭もの犬や猫が行政によって致死処分されています。つまり犬や猫は捕まえたらず保健所で殺すというのが、日本のやり方です。ちなみにアメリカでは年間500万頭の犬猫が致死処分されています。しかしながら殺すことにより、野良猫や野良犬を減らすことは不可能であるということが明らかになってきています。

致死処分するより不妊去勢、動物に優しいタイの施策を支援

タイ政府は近年「野良犬を捕まえて致死処分する」という従来の日本式方針を大転換し「野良犬を捕まえて不妊去勢手術、ワクチン投与を施し元の場所に戻す」という方法で、人間とソイドッグが共生できる社会作りを目指しています。「第一に殺生はしたくない。いくら多くの犬を殺しても、生き残った犬がそれ以上に繁殖して増える一方である。経済的に考えても、殺し続ける費用よりも不妊去勢手術を施し戻す方が結局安価で済む」という合理的、経済的、そして何よりも生き物に優しいブミボン国王をはじめとするタイ人の心が表れた方法です。実際の活動は地元

れています。

私たちはこの施策が成功し、世界中に広がることを望んでいます。実際にブータン国では同様の施策をとり、一定の成果を上げて始めています。(またたび獣医師団も過去2度にわたって山口先生をブータン国に派遣しています)

今回のような事態でソイドッグの数が増えると、この素晴らしい方針が「野良犬を捕まえて致死処分する」という従来の方針に戻ってしまう可能性があります。せっかくの素晴らしい施策を後戻りさせないために、「動物の命に優しいタイ政府の方針の継続」を支援し、成功への力添えになりたい。そしてこの施策の成功がケーススタディとなり世界中に広がってほしいと考えています。そして何よりも私たちがタイ国、タイ人、タイの犬、猫、動物たちを心から愛しているというのが今回、タイ、ブータンで活動を行う理由です。



「またたび獣医師団」

野犬、野良猫の不妊去勢手術を行う日本初の移動動物病院。阪神・淡路大震災の際、ボランティアで1万頭以上の動物の治療や不妊去勢手術などを行ったことをきっかけに発足。参加者は獣医、学生、社会人、主婦、動物愛護ボランティア主催者などさまざま。基本的に費用は参加者の自己負担。参加者以外に寄付を募るということは一切行っていない。海外ではブータン国への獣医派遣を行っている(ブータン派遣は外務省管轄財団法人シルバーボランティア協会、ブータン国、国連の要請によるもので、費用は個人負担と上記メンバーからの寄付、上記団体からの援助金で行われている)。参加者は日本各地でそれぞれ仕事を持っており、何かあれば現場に集まり作業を終え、解散するというスタイル。

またたび獣医師団ではボランティア参加者を募集しています。詳しくはブログをご覧ください。
<http://blog.livedoor.jp/matatabivets/>

獣医育成と教育機関整備が急務です

始まったばかりのスマトラ被災動物救済ですが、今後数年にわたって続けていきます。12年前、大阪から始まった私たちの活動ですが、不妊去勢手術の普及を中心に今後もさらに活動範囲を国内外ともに広げていきます。そのためには動物愛護、社会奉仕の理念と高度な技術を有する実践獣医の育成が、急務であると思います。また獣医がこういった活動に気軽に参加できる環境の整備が必要です。実践獣医育成のための教育機関と付属動物病院の開設も急務でしょう。そのため土地、建物を提供することによって、またたび獣医師団の活動に参加していただける方を募集しております。今後も寄付を募らず、自己負担、自己責任により、できる限り頑張っていきたいと思っています。

またたび獣医師団

事務局長 佐上邦久